

# 〈中学校美術部会〉

## 研究主題

「魅力ある学習活動を通して生徒の資質や能力を育成する指導の在り方」

## 研究の概要

学習指導要領の「表現及び鑑賞の指導上の配慮事項」に示されているように、学習活動においては、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図ることが重視されている。本部会では、そのような学習活動を通して、生徒の様々な資質や能力を育成するための題材設定の工夫及び指導の在り方について研究開発を行った。

### I 研究の目的及び方法

#### 1 学習活動において生徒が学習の喜びを実感することを重視する

美術で育成する資質や能力は、「美術への関心・意欲・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」である。

これらの資質や能力は、個別に機能し高められるものではなく、相互に関連し合い働き合って高まるものと考えられる。

特に、表現及び鑑賞活動における、生徒の主体的・創造的にものをつくり出す喜びや、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさの実感、生徒自身のもてる力をすすんで働かせる原動力となる。

そのために、学習活動の設定や指導においては、生徒の「美術への関心・意欲・態度」を高め続けていくことを重視し、生徒をひきつけるような導入の設定、学習活動が進むにつれて、さらに活動に熱中していくような展開の工夫、意欲がわからない生徒への個別的・具体的な手だてをいかに行っていかかが、極めて重要なポイントとなる。

そこで、今回の東京の教育21美術部会では、生徒が表現及び鑑賞の活動に喜びや楽しさを実感しながら取り組むことのできる魅力ある学習活動を通して、生徒の資質や能力が高められるような題材設定の工夫及び指導の在り方について研究開発することを目的とした。

#### 2 魅力ある学習活動を通して4観点に示された生徒の資質や能力を育成する

各学校の美術の授業では、教科書を基にして、学校の立地環境や地域の伝統工芸等を活用し、千差万別の学習活動が行われている。

美術の授業においては、それらの多様な学習活動を通して、美術の学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容（＝価値ある内容）を、すべての生徒が実現することが目的であるが、個々の学習活動の表面的な活動の内容にとらわれてしまうと、生徒がある特定の技能を身に付けたり、技能の腕前を競い合ったりする指導のみに陥ってしまい、生徒を上手、下手等の基準で序列化するための授業となってしまう。

そこで、今回の研究開発では、表現及び鑑賞の魅力ある学習活動を通して、「生きる力」としての、「美術への関心・意欲・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」をどのように育成するかを明確にし、生徒にとって多様なイメージが膨らむような題材、生徒が創意工夫し自分の表現方法を生かして制作する中で、基礎的な技能を身に付けたり活用したりする題材、生徒が主体的に自分らしく見たり感じたりする喜びを実感しながら、見方を広げ感じ方を深めることのできる題材及び具体的な指導の在り方について、協議と検証授業を通し、研究開発を行った。

## II 研究の内容

### 指導事例 1 題材名 自分のマークをシールにしよう (第2学年・A表現(2)・全4時間) ～花押の手法を用いて～

1 題材の目標 花押のもつ簡潔で洗練された造形表現のよさに気づき、そのよさを生かしながら自分らしく豊かに発想し、コンピュータを活用して楽しく自分のマークをつくる。

#### 2 題材設定のポイント

現在、学校では「分かる授業」に向けた授業改善が求められている。そのために、新たな視点での題材の開発こそが重要と考えた。

この題材のポイントは以下の2点である。

##### (1) 伝統の中に息づく造形表現を活用する

自分の名前を基に固有のマークをデザインすることに、多くの生徒が興味・関心をもつ。

また、日本の文化の中で脈々と受け継がれてきた花押の手法を参考にして、サイン風のマークを考える面白さと、シールとして作品化することで、生徒が意欲的に取り組める題材とした。

##### (2) コンピュータを試行錯誤のためのツールと位置づけて活用する

絵の具で着色する場合、思うように色がつかれないために、それだけで意欲を喪失させてしまう生徒がいる。そのため、この題材では、表現のためのツールとしてコンピュータの描画用ソフトウェアを活用することで、手軽に配色のシミュレーションを行うことができるようにした。

#### 【花押（かおう）とは…】

花押は「書判（かきはん）」と言われることもあるように、サインであり、かつ「はんこ」の役目を果たしている。中世では判というとならば花押のことを指すほどであり、判を加えるというのは花押を加えることを指し示していた。

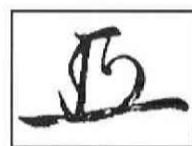
#### <一字体>…

一字体は、名前の一字か、ある一定の文字、例えば縁起の良い文字などを好んで書きくずして花押としたもの。室町時代には、公卿・武家ともに広く用いられた。



#### <明朝体>…

明朝体の花押としては、徳川家康の花押が有名である。明朝体の花押とは、形象の上下に、「一」という文字を加えたものをいう。上下に「一」とおくのは、「地平天成」の意であるといわれている。



#### 【生徒のマークづくりの条件】

- i. 基本枠となる図形の中に、花押の手法（一字体又は明朝体）を参考にして自分のマークを描く。
- ii. 線の描き始めは基本枠に接し、線の描き終わりも基本枠に接することを原則とする。
- iii. スキャナーで読み込んだ図形に着色する際は、自分の意図した色を2色までつかうことができる。

#### 3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
花押の美しさや自分のマークづくりに関心を持ち、意欲的に活動に取り組もうとする。	花押の造形表現のよさを生かし、感性を働かせて独創的に考えて豊かに発想し構想を練る。	表現意図に応じて、自分らしく創造的な工夫をして表現する。	デザインについて見方や理解を深め、花押の手法を用いたマークのよさや美しさを感じ取る。

4 指導と評価の計画 [全4時間]

活動	時間	学習活動	指導内容及び留意点	学習活動に即した 具体的評価規準
導入の工夫	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マークに関するクイズ これは何のマーク? (5問出題)</li> <li>○補助教材を用いてマークについて説明する。</li> <li>○花押についての説明</li> <li>○マークづくりの完成までのプロセスを説明する。</li> <li>◎花押の五体のうち 一字体の実習 明朝体の実習</li> <li>○まとめ・次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇マークの画像を提示、ワークシートに答えを記入させる。</li> <li>◇マーク・シンボルについての理解を深める。</li> <li>◇花押の画像を提示し、ワークシートを使用して、花押の手法を説明する。 (花押の五体、伊達政宗の鶴鶴の花押の話)</li> <li>◇一字体について説明した後、ワークシートに練習させる。</li> <li>◇明朝体について説明した後、ワークシートに練習させる。</li> <li>◇用具類の片付け、学習の振り返り、次時の活動内容についての連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア①マークによる表現、花押の造形表現に関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組む。 (観察・ワークシート)</li> </ul>
	鑑賞	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の振り返り</li> <li>◎龍安寺の朱印と生徒作品の鑑賞</li> <li>○マークづくりの三つの条件の確認</li> <li>◎自分のマークづくり ①字のデザイン ②基本図形(6種類の図形)にあてはめて全体のデザイン ③全体のデザインの決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇花押の一字体と明朝体について確認する。</li> <li>◇ワークシートに感想を記入させる。</li> <li>◇ワークシートで確認させる。</li> <li>◇意図を明確にして制作する。 ワークシートに制作する。 全体のバランスを考えて制作する。</li> </ul>
表現	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ケント紙に、自分のマークを清書する。(筆ペン使用)</li> <li>◎生徒作品の相互鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇花押の造形表現のよさを生かして、独自の表現を追求させる。</li> <li>◇自分の作品や友達の仕事について、感じたことや気付いたことをワークシートに記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア③様々な表現に関心を持ち、自分のマークづくりに意欲的に取り組む。</li> <li>ウ①筆ペンを使い、自分らしく工夫して表現する。</li> <li>イ②それぞれの作品のよさや美しさを味わう。 (観察・ワークシート)</li> </ul>
鑑賞	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業の流れを確認する。</li> <li>◎コンピュータの描画用ソフトを活用して着色 ①着色のシミュレーション ②着色の決定</li> <li>◎コンピュータの画面を提示したまま作品の相互鑑賞・自己評価</li> <li>○まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇本時の作業内容について説明する。</li> <li>◇様々な色を用いて配色を考えさせる。</li> <li>◇ワークシートに感想や自己評価を記入させる。</li> <li>◇ファイルに名前をつけて保存して提出させる。⇒教師がシール用紙に印刷し、後日、生徒一人一人に配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア③様々な表現に関心を持ち、自分のマークづくりに意欲的に取り組む。</li> <li>ウ②コンピュータを活用し、自分らしく創造的な工夫をして表現する。</li> <li>イ②それぞれの作品のよさや美しさを味わう。 (観察・作品・ワークシート)</li> </ul>

## 5 学習活動の設定の工夫と授業改善

この題材を開発したねらいどおりに、花押の造形表現のよさを生かした自分のマークをつくることに、生徒は高い関心を示した。授業の終了時、ワークシートの感想欄に、楽しかったと答えた生徒がほとんどであった。

特に、生徒に完成したときのイメージをもたせるために、制作の早い段階で、生徒作品のサンプルを教室のモニターに例示（基本図形の中に線だけが描かれた状態のマークに、色彩が浮かび上がってくる仕掛けを用いて）したことはとても効果的であった。多くの生徒が、早く自分の作品をつくりたいと意欲的に取り組むきっかけとなった。【生徒の制作への意欲を喚起する工夫】

発想が困難な生徒がいることも想定し、あらかじめ、学習活動のプロセスに従って、生徒が豊かに発想し具体的な構想が確立していくよう、数種類のワークシートを作成し活用した。（下の図を参照）

【生徒にとって多様なイメージが膨らむような工夫】

また、周囲の生徒の作品に目を向ける時間を意図的に設定することも、生徒の意欲を高め、新たな発想をさせることに、とても効果的であった。

活動に全く参加しない生徒は皆無であり、多くの生徒が「もう一枚ワークシートをもらえませんか。」と、旺盛な制作意欲を示した。(C)と判断されるような状況の生徒に対しては、つくる文字を換えてみるようアドバイスしたり、ヒントとなる筆の動きや線の流れをワークシートにできるだけ多く描いてみるようなながしたりして、個別指導を丁寧に行った。

## 6 ワークシート及びコンピュータを活用した作品例

シート3

シート4

シート5

作品①

作品②

作品③

作品④

## 指導事例2 題材名 「不思議な廊下・素敵な廊下」～絵画の「奥行き」表現に挑戦～

(第1学年・A表現(1)・全6時間)

1 題材の目標 絵画やデザインの基礎となる「奥行き」の表現に関心を持ち、「奥行き」表現の効果を生かして、自分の思いや考えを楽しく創造的に表現する。

### 2 題材設定のポイント

- (1) 身近な風景の観察を通しての、生徒の気づきや実感を大切にしながら、絵画やデザインにおける「奥行き」表現の効果を生かした表現活動に興味をもたせる。
- (2) 視覚的な効果を高めるために、「奥行き」表現の効果を自分らしく活用することにより、創造的な表現への意欲を高め、基礎的な技能を身に付けさせる。

### 3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
「奥行き」表現の効果を生かした表現に関心をもち、意欲的に知識や技能を身に付けようとし、それを生かして主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組む。	感性や想像力を働かせて、自分らしく豊かに発想し、意図に応じた形や色の組み合わせを工夫して構想する。	自分の意図に応じて、「奥行き」表現の技法を活用し、創造的に表現する。	「奥行き」表現の効果を生かした、多様な表現方法について理解し、見方や感じ方を深める。

### 4 指導と評価の計画 [全6時間]

活動	時間	学習活動	指導内容及び留意点	学習活動に即した具体的評価規準
導入  導入の工夫	1	<p>○絵画やデザインにおける「奥行き」の表現について参考作品などを見ながら考える。</p> <p>◎「奥行き」の表し方について、描きながら考える。</p> <p><b>ワークシート問1</b> 「図中の二つのマークを、大きさや位置関係等を変化させ、画面に「奥行き」が感じられるように描き直してみよう。」</p> <p><b>ワークシート問2</b> 「美術室から見た廊下の様子を想像して、簡単な線で描いてみよう。」</p> <p><b>ワークシート問3</b> 「実際に美術室の入り口から廊下の見え方を観察して、もう一度描き直してみよう。」</p> <p><b>ワークシート問4</b> 「風景写真や作品写真の図中</p>	<p>◇幅広い分野から参考作品を提示し、興味をもたせる。</p> <p>◇ワークシートと同じ図を、スクリーンに投影する。</p> <p>◇生徒が描き終えた後、生徒の作品を例示しながら、大小の差で表現する、又は重なり前後関係で表現する方法などがあることを示す。</p> <p>◇廊下と壁と天井の境を示す単純な直線で描かせる。</p> <p>◇廊下の床の両脇に、赤いロープを延ばしておく。</p> <p>◇順番に入り口に立たせ、赤いロープの見え方を観察させる。</p> <p>◇生徒が描き終えた後、生徒の作品を例示しながら、見え方を解説する。</p>	<p>ア①「奥行き」の表現に関心をもち、意欲的に活動に取り組む。 (観察・ワークシート問1～5)</p>

表現		<p>に、手前から奥へとその方向性を示す線を見つけ、赤ペンでなぞってみよう。」</p> <p>◎一点透視図法について理解する。</p> <p><b>ワークシート問5</b></p> <p>「廊下の図を基に、床面の線や窓を描き加えながら一点透視図法を練習しよう。」</p> <p>◎自分が考える「不思議な(素敵な)廊下」を、一点透視図法を活用し表現する。</p> <p>①下描きワークシート</p> <p>参考作品や写真資料を見ながら自分らしく発想し、窓やドア、天井の形、床や壁面の模様などを、透視図法を活用して表現する。 (ワークシートを提出)</p>	<p>◇代表生徒に、スクリーン上で説明させる。</p> <p>◇これまでの作業と観察の結果と関連付けながら、消失点の存在に気付かせる。</p> <p>◇板書で例示する。生徒の質問に答えながら、柱や掲示物なども自由に描き込ませる。</p> <p>◇参考作品を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の温もりのある廊下</li> <li>・ 西洋の教会風の廊下</li> <li>・ 超現実的な廊下 等</li> </ul> <p>◇写真資料を利用させる。</p> <p>◇絵の中に人や物を描き入れることで、視覚的効果が高まることを教える。</p> <p>◇個別指導の充実を図る。</p> <p>◇(授業後) ワークシートに個別のアドバイスを記入する。</p>	<p>ア②「奥行き」表現の効果を生かした作品の制作に主体的に取り組み、自分らしくよりよい表現を創造しようと、試行錯誤を重ねながら工夫しようとする。</p> <p>イ①感性や想像力を働かせて、自分らしくに豊かに発想し、意図に応じた形の組み合わせを工夫して構想する。 (観察・ワークシート)</p>
	2	<p>前時に引き続き、「不思議な(素敵な)廊下」の下描きを制作する。</p> <p>色彩の効果を考えながら、配色の構想を練る。 (ワークシートを提出)</p>	<p>◇(授業後) ワークシートに個別のアドバイスを記入する。</p>	<p>イ②「奥行き」表現と色彩の関係を考えながら、自分の意図に応じた色の構想を練る。 (観察・ワークシート)</p>
	3	<p>色彩の効果を考えながら、配色の構想を練る。</p>	<p>◇グラデーションや、色の進出・後退の性質など、色彩の効果について復習させ、「奥行き」表現に応用できることを指導する。また、光源を定め、陰影をつけることで、より視覚的な効果が高まることを指導する。</p>	<p>ウ自分の意図に応じて、「奥行き」表現の技法を活用し、創造的に表現する。 (観察・ワークシート・作品)</p>
	4			
	5	<p>②作品制作</p> <p>ワークシートの下描きを画用紙にトレースする。 水彩色鉛筆で彩色する。</p>		
鑑賞	6	<p>◎友達の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを味わい、「奥行き」表現の視覚的な効果について考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>◇いくつかの作品を掲示し、「奥行き」表現が、それぞれの思いや意図を表現するのに、どのような効果を上げているかを考えさせる。</p>	<p>エ「奥行き」表現の効果を生かした、多様な表現方法について理解し、見方や感じ方を深める。 (観察・ワークシート)</p>

## 5 個に応じた指導の充実と授業改善

中学生でも風景画を描く時に、遠くまで続く道路を平行線で描いたり、一本の地平線の真上に人物や建物を描いたりする生徒は多い。これは、対象をしっかりと見つけてとらえることをせず、知識や概念から安直に描いているためである。

そこで生徒が、普段は様々なものを、なかなかじっくりとは見ていない日常性を脱け出し、対象をよく見て気付き発見し実感するような活動を通して、「発想や構想の能力」、「創造的な表現の技能」を高めていく取組を取り入れていくことが重要となる。【生徒の実感を重視した学習活動の設定】

中学生は、より「リアルに」表現することへの関心が高まる時期であるが、技能面での力不足から、表現すること自体に苦手意識をもってしまいう傾向も見られる。平面上に「奥行き」を表現する技法に出会うことは、生徒にとって新鮮な驚きであり、絵画やデザインへの表現意欲を高めるきっかけとなる。「自分には描けない、つくれない」といった苦手意識をもたせないためには、生徒が創意工夫し自分の表現方法を生かして制作する中で、基礎的な能力を自然と身に付けたり活用したりする学習活動の設定、そして生徒一人一人の課題に応じた指導の充実が極めて重要である。【学習活動の工夫と個に応じた指導の充実により基礎的な能力の確実な定着を図る】

以下に、本題材に関する個に応じた指導の具体例と(A)と判断する具体的な例を示す。

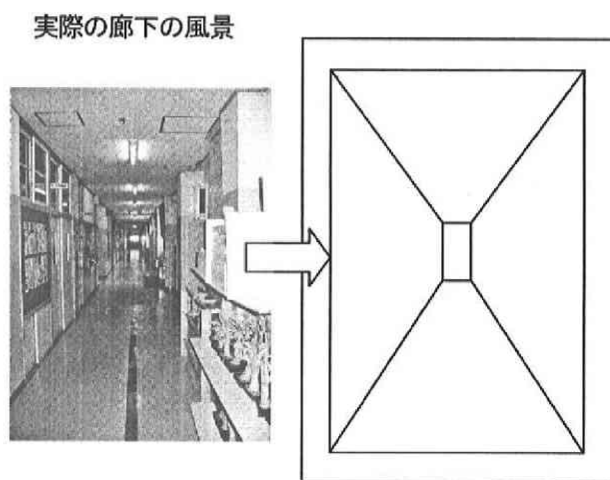
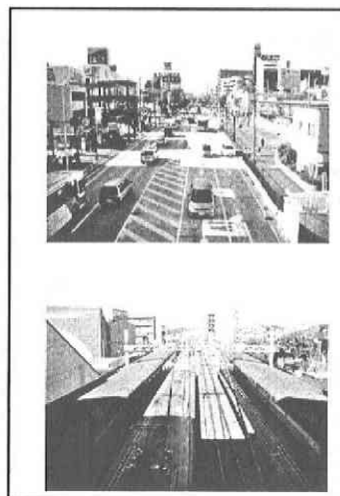
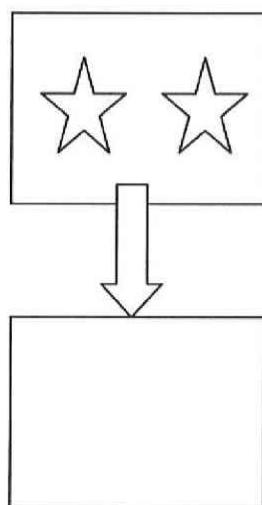
学習内容	(C)と判断する生徒の様子	教師の働きかけ	生徒の変容	(A)と判断する具体的な例
感性や想像力を働かせて、自分らしくに豊かに発想し、意図に応じた形の組み合わせを工夫して構想する。 (発想や構想の能力)	発想が浮かばず、ワークシートを眺めるだけで、作業にとりかかれない。	校舎の廊下などの既成の概念にとらわれず、「どんな廊下があったら面白い？」などと問いかけながら、生徒の興味・関心を引き出し、それを表現する際の具体的方法を複数例示し、生徒が選べるようにしたり、生徒の関心・意欲を喚起させる点で有効な参考資料を提示したりする。	小川のような廊下を描きたいと思うようになり、自然さをイメージした連想を展開し、木の柵や、草花を植えるスペース等をどう描けばよいか、相談してきた。	どんな感じにしたいか資料を参考にして、透視図法による効果を想定しながら、次々に発想し、枠外にラフスケッチをいくつも描くなど、発想を様々なパターンに置き換えながら構想を練っている。
自分の意図に応じて、「奥行き」表現の技法を活用し、創造的に表現する。 (創造的な表現の技能)	白と黒だけを使って塗っているが、作業が進むにしたがって、遠近感の効果がなくなってしまう。	生徒「暗い地下の世界を表したいので色は使いたくない。」 →「無彩色だけでも構わない。手前と奥で明暗を使い分けると効果的」とアドバイス	奥を暗く塗りつぶし、手前になるほど段階的に明るくなるグラデーションで、彩色を始めた。そして、遠近感が効果的に表現されたことを実感し、その後の作業にとっても意欲的になった。	自分の表現意図に基づき、美しさや面白さなどの効果を考えながら、細部の立体感までこだわりをもって描き、空間全体の統一された遠近感を表現することができる。

## 6 ワークシートの活用

ワークシート問1

ワークシート問4

ワークシート問5



### 指導事例 3 題材名 「浮世絵版画の素晴らしさを宣伝しよう」

(第2学年・A表現(2)、B鑑賞(1)・全3時間)

1 題材の目標 浮世絵のよさや美しさ、多様な表現方法などについての理解を深め、それらを生かして、自分らしく発想し、心豊かで美しく創造的な表現で浮世絵のポスターを制作する。

#### 2 題材設定のポイント

鑑賞の学習活動は、教師からの一方的な知識の教え込みになりやすい。教師の説明を聞いて、ただ感想をまとめるなどの受動的な活動ではなく、生徒自らが作品のよさや美しさを能動的に感じ取り、主体的に鑑賞活動に取り組む題材として設定した。

- (1) 生徒同士の意見交換を通して、友達の見方を聞くことにより、生徒一人一人の浮世絵作品に対する見方が広がり、感じ方が深まる活動とする。
- (2) 生徒自身が自分の感じ方や見方で浮世絵作品を選んだり、感じたことなどを自分らしく豊かに表現したりする活動とする。

#### 3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
浮世絵作品やその作者に関心をもち、そのよさや美しさを感じ取り、その感じたことをもとにして、自分らしいポスターを制作しようとする。	感性や想像力を働かせ、浮世絵のよさや美しさを生かして、独自の豊かに発想し、構成を工夫し構想を練る。		様々な浮世絵作品のよさや美しさ、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、自分の価値意識をもって批評し合ったり、自分の見方や感じ方を深めたりする。

#### 4 指導と評価の計画 【全3時間】

活動	時間	学習活動	指導内容及び留意点	学習活動に即した具体的評価規準
鑑賞  導入の工夫	1	<p>○オリエンテーション：浮世絵版画についての歴史、種類、技法の説明。</p> <p>◎ワークシート「お気に入り度チェック表」に記入</p> <p>*生活班内で浮世絵5作品を回覧し、作品を観た第一印象を、該当する項目の左に鉛筆でチェックする。</p> <p>《作品》①東洲斎写楽「大谷鬼次の奴江戸兵衛」 ②喜多川歌麿「寛政三美人 難波屋おきた」 ③安藤広重「東海道五十三次 庄野」 ④葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 ⑤歌川国芳「みかけはこわいがとんだいいひとだ」</p> <p>○浮世絵5種類について、1枚につき6分程度の解説。⇒生徒は鑑賞ワークシートに記入</p>	<p>☆版画の果たしてきた役割について理解させる。</p> <p>☆第一印象を大切にさせる。</p> <p>☆ワークシートは生徒が記入後、回収する。</p>	<p>ア ①浮世絵作品やその作者に関心をもち、そのよさや美しさを感じ取ろうとする。 (観察)</p>



鑑賞	2	<p>◎鑑賞ワークシートに自分の感想を記入</p> <p>*前回の授業で学んだ5枚の作品を見て、ワークシートに自分が記入した内容を読み返しなが、それぞれの作品に対する感想を記入する。</p> <p>◎それぞれの作品について、自分が感じたことを発表し合う。</p> <p>*自分の感想との類似点、相違点に気付く。 ⇒見方が広がる。</p>	<p>☆自分の感じ方に自信がもてない、正しいか間違っているかを気にしてしまうというような生徒には、自由に感じ気付くことの素晴らしさを伝えたり、感じたこと気付いたことを褒めるように心がけたりする。</p>	<p>ア①浮世絵作品やその作者に関心を持ち、そのよさや美しさを感じ取ろうとする。 (観察・ワークシート)</p> <p>エ①様々な浮世絵作品のよさや美しさ、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする。 (観察・ワークシート)</p>
		<p>◎ワークシート「お気に入り度チェック表」に記入</p> <p>*教師の解説、及び友達の感想を聞いた上で、該当する項目の右に赤でチェックする。</p> <p>*最後に、自分が一番気に入った作品の一つを選び、どこが気に入っているのかを記述する。</p> <p>○次週制作するポスターについての説明</p> <p>*自分が一番気に入った作品のポスター制作</p>	<p>☆作品例を見せ、図案を考えておくよう伝える。</p>	<p>エ②様々な浮世絵作品のよさや美しさ、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、自分の見方や感じ方を深めたりする。(観察・ワークシート)</p>
表現	3	<p>◎浮世絵のポスター制作</p> <p>*選んだ浮世絵のよさや美しさを、宣伝するためのポスターを制作する。(時間が余れば複数制作してもよい)</p> <p>*コンピュータの描画用ソフトを活用して制作する。</p> <p>◎完成作品の相互鑑賞</p> <p>*鑑賞ワークシートに、自分の作品の自己評価を記入する。</p>	<p>☆描画用ソフトを活用した表現方法については、第1学年で学んでいるが、再度説明する。</p> <p>☆使用する画像データはあらかじめCD-R等に保存し、生徒の希望に応じて自由に取り出せるようにしておく。</p>	<p>ア②浮世絵作品のよさや美しさを感じ取り、その感じたことをもとにして、自分らしいポスターを制作しようとする。 (観察・ワークシート)</p> <p>イ②感性や想像力を働かせ、浮世絵のよさや美しさを生かして、独創的に豊かに発想し、構成を工夫し構想を練る。 (観察・ワークシート)</p>

## 5 学習活動の設定の工夫と成果

この題材の鑑賞活動は、浮世絵作品の解釈について生徒に正解を求めるのではなく、生徒一人一人が作品から何に気付く、どのように感じたかを大切にしながら、教師の説明や友達との意見

交換を通して、見方や感じ方を深め、自分の気に入った作品を選択する活動である。そのねらい通りに、生徒は活発に意見交換し、見方を広げながら感じ方を深め、楽しく充実した学習活動が行われた。

また、ワークシート（お気に入り度チェック表）の内容設定の工夫がとても効果的であった。

生徒への質問項目として、「自分が美術館の館長なら…（展示したいですか？）」、「自分がテレビ番組制作者なら…（紹介したいですか？）」、「自分の家に…（飾りたいですか？）」の3項目を設定した。下の記入例（図参照）の中で、生徒が最初に作品の第一印象から選んだ答えは左部分の○であり、右の◎は生徒同士の意見交換と教師の説明の後、生徒が選んだ答えである。

この生徒の記入例からも分かるように、生徒同士の意見交換と教師の説明の後、作品への好感度が上昇した生徒がほとんどであった。

また、鑑賞ワークシートの記述内容と、このワークシート（お気に入り度チェック表）の自分が一番気に入った作品についての記述内容を比べると、学習活動を通して見方や感じ方が深まった様子が明らかであった（下の記入例を参照）。〔生徒が主体的に自分らしく見たり感じたりする喜びを実感しながら、見方を広げ感じ方を深めることのできる題材〕

《生徒の記入例》安藤広重「東海道五十三次 庄野」について

雨の線の表現がうまい。人は面白い格好をしている。	人が身をかがめて坂を走っているところや、竹やぶの竹が激しく揺れているところが、細かいところまで描かれていて、激しい雨がとつぜん降り出した時の様子が伝わってきて、とても気に入った。
--------------------------	---

### 鑑賞授業《浮世絵》お気に入り度チェック表

★ 各自が各項目の人物になったつもりで○で囲み、線をつなげよう。

①東州斎写楽 大谷鬼次の奴江戸兵衛の印象は・・・？

自分が美術館の館長なら・・・ 自分がテレビ番組制作者なら・・・ 自分の家に・・・

<input checked="" type="radio"/> ぜひ、展示したい	<input type="radio"/> 多くの人に紹介	<input type="radio"/> 飾りたい
<input type="radio"/> 考えてはみる	<input checked="" type="radio"/> 時間があれば紹介	<input type="radio"/> 飾ってもよい
<input type="radio"/> 展示はしない	<input type="radio"/> 紹介しない	<input type="radio"/> 飾らない

②喜多川歌麿 寛政三美人 難波屋おきたの印象は・・・？

自分が美術館の館長なら・・・ 自分がテレビ番組制作者なら・・・ 自分の家に・・・

<input type="radio"/> ぜひ、展示したい	<input type="radio"/> 多くの人に紹介	<input type="radio"/> 飾りたい
<input checked="" type="radio"/> 考えてはみる	<input type="radio"/> 時間があれば紹介	<input checked="" type="radio"/> 飾ってもよい
<input type="radio"/> 展示はしない	<input checked="" type="radio"/> 紹介しない	<input type="radio"/> 飾らない

③安藤広重 東海道五十三次 庄野の印象は・・・？

自分が美術館の館長なら・・・ 自分がテレビ番組制作者なら・・・ 自分の家に・・・

<input type="radio"/> ぜひ、展示したい	<input type="radio"/> 多くの人に紹介	<input type="radio"/> 飾りたい
<input checked="" type="radio"/> 考えてはみる	<input type="radio"/> 時間があれば紹介	<input checked="" type="radio"/> 飾ってもよい
<input type="radio"/> 展示はしない	<input checked="" type="radio"/> 紹介しない	<input type="radio"/> 飾らない

④葛飾北斎 富岳三十六景 神奈川沖浪裏の印象は・・・？

自分が美術館の館長なら・・・ 自分がテレビ番組制作者なら・・・ 自分の家に・・・

<input checked="" type="radio"/> ぜひ、展示したい	<input checked="" type="radio"/> 多くの人に紹介	<input checked="" type="radio"/> 飾りたい
<input type="radio"/> 考えてはみる	<input checked="" type="radio"/> 時間があれば紹介	<input type="radio"/> 飾ってもよい
<input type="radio"/> 展示はしない	<input type="radio"/> 紹介しない	<input type="radio"/> 飾らない

⑤歌川国芳 みかげはこねみかどんたいむとだの印象は・・・？

自分が美術館の館長なら・・・ 自分がテレビ番組制作者なら・・・ 自分の家に・・・

<input type="radio"/> ぜひ、展示したい	<input checked="" type="radio"/> 多くの人に紹介	<input type="radio"/> 飾りたい
<input type="radio"/> 考えてはみる	<input type="radio"/> 時間があれば紹介	<input type="radio"/> 飾ってもよい
<input checked="" type="radio"/> 展示はしない	<input type="radio"/> 紹介しない	<input checked="" type="radio"/> 飾らない

自分が一番気に入った作品は 葛飾北斎 神奈川沖浪裏		
《理由》		
舟がとてもしずかなくて、舟に乗っている人が、船にへばりついているところ		
波の色のつかい方。		
富士山が小さく描かれていて、波のすざさかよく分かる。迫力がある。		
空のぼやけている感じ		
組	番	氏名

### III 研究のまとめ

今年度は、「生きる力」としての、「美術への関心・意欲・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」を全ての生徒にはぐくむため、生徒にとっていかに魅力ある学習活動を設定するか、そして、個に応じた指導の充実をいかに図っていくかの視点で研究開発を行った。

ワークシートを、生徒の学びのプロセスを重視して工夫し、活用することは極めて効果的であった。また、コンピュータの活用も有効であった。現在、様々なソフトウェアがあるが、生徒がコンピュータを表現活動などの道具として活用することで、興味・関心を高め、主体的かつ意欲的に活動に取り組めるよう、それらの積極的な活用を推進することはとても重要である。